

# IPU

# 28

向学心は燃えている。

雪のモールド、  
大連交通大学からの  
留学生

まだ12月だというのに、キャンパスは雪で分厚く覆われていました。クリスマスも過ぎて冬季休業に入った、ある日。「寒い、寒い」と口々に連発しながらも、モールドで歓声を上げていたのは中国からの留学生です。昨年10月、本学は国際交流協定締結校である大連交通大学（遼寧省）から、初めての学生を受け入れました。来日した5人は特別聴講学生として1年間にわたり、ソフトウェア情報学部の講座に所属して学ぶことになりました。

大連では、こんなに積もらない。だから、ただただ驚いている。そんな様子の皆さんに「この冬の日本は、例年になく大雪に見舞われているのです」と教えてあげると「同、納得した表情に。厳しい冷え込みの中、ふたんの暮らしや通学は大変かもしれません。あたり一面の雪景色も思い出しに残りそうです」（次ページへ続く）。

## ニュース・リリース

### 釜石、北上で 地域連携フォーラムを 開催します。

さまざまな知的資産を融合させ、その成果を地域社会へ還元する取り組み。全学的なプロジェクトチームによるタイムリーな研究。さらに、地域に根ざす身近なテーマに基づく研究成果。これらの紹介を通し、本学が独自に展開する研究と地域連携への理解を深めていただく機会です。

※どちらの会場も定員50名・参加費は無料

#### 釜石会場

平成18年2月21日[火] / 13:00~17:00  
ホテルサンルート釜石・鳳凰(西)  
釜石市大町2-3-3  
TEL.0193-24-3311

#### おもなプログラム

- 全学的な研究として  
「テラヘルツ応用研究プロジェクト」  
「地域専門職高度化プロジェクト」
- 地域に根ざす研究として  
「在宅療養者の支援システムの構築」  
「食品マネジメントシステムの構築  
—生産・流通におけるトレーサビリティの視点—」  
「ホヤ摂取による脂質代謝に対する作用  
ならびにその機構解析」

#### 北上会場

平成18年3月2日[木] / 13:00~17:00  
ホテルシティプラザ北上・薫風の間  
北上市川岸1-14-1  
TEL.0197-64-0001

#### おもなプログラム

- 全学的な研究として  
「テラヘルツ応用研究プロジェクト」  
「地域専門職高度化プロジェクト」  
「共創メディア研究プロジェクト」  
「少子・高齢研究プロジェクト」  
「環境研究プロジェクト」
- 地域に根ざす研究として  
「岩手県の百寿者の暮らし」  
「ユニバーサルデザインに関する研究」

#### ●お申し込み方法

◆電話 [019-694-3330]  
FAX [019-694-3331]  
もしくは電子メール  
・北上会場 [ki-forum@ml.iwate-pu.ac.jp]  
・釜石会場 [ka-forum@ml.iwate-pu.ac.jp]  
で参加希望を承ります。  
※所属・職名・お名前・電話番号・メールアドレス  
をお知らせください。

◆お問い合わせ先  
岩手県立大学 地域連携研究センター  
〒020-0173  
岩手県滝沢村滝沢字菓子152-89  
電話 [019-694-3330]  
FAX [019-694-3331]

## キャンパス・ダイアリー

2月	13~14日	大学院・第2次入学選抜
	15~21日	後期集中講義期間
	17日	宮古短期大学部・一般入学試験
	21日	地域連携フォーラム(釜石市)
	24日	宮古短期大学部・一般入学合格発表
	25~26日	四大・一般選抜前期日程
3月	2日	地域連携フォーラム(北上市)
	10日	盛岡短期大学部・一般選抜
	12~13日	四大・一般選抜後期日程
	23日	岩手県立大学・大学院 学位記授与式
	17日	宮古短大部・卒業式
	24日	盛岡短期大学部・卒業式
	24~31日	春季休業期間
4月	6日	入学式(予定)

## あなたの声を

IPUニュースの紙面づくりに御参加ください。記事に関する感想や意見、さらに投稿、本学への質問など内容も形式も問いません。FAXまたは電子メールで随時受け付けます。

## リエゾン Liaison

この冬は数十年振りの大雪に見舞われ、キャンパスは真っ白な雪に覆われております。さて、本学では昨年10月、国際交流締結校である大連交通大学(中国・大連市)から5名の留学生を初めて受け入れました。彼らは数百名の留学希望者の中から選ばれ、ソフトウェア情報学部で学んでいます。向学心が高いのももちろんのこと、何より希望溢れる目の輝きが印象的でした。柔軟性がある若いうちに異文化交流・理解を図ることはとても有益なことと思います。学生の皆さんには視野を広げるため積極的に外国に目を向け、国際的に活躍できる人材になってほしいものです。(佐藤)

## キャンパス彩

### カラマツの 防風林



冷たさを増して吹き付ける北風が、すっと伸びた幹を揺らしていました。樹齢は80年ほど。テニスコート脇に植えられたカラマツの並木も、旧・岩手県畜産試験場の名残です。その向こうに建つのは、体育棟や学生ホール棟。ふと見ると、シラカバも弱い西日に照らされて、厳しい冬の訪れが想われる情景でした。

# 未来を探る国際シンポジウム

「学」の立場でプロジェクト指向を先鋭化



さらにパネルディスカッションで掲げられたテーマは「WATEの目指す21世紀型産業の方向」地域価値から世界価値へ。ソフトウェア情報学部教授・藤田ハミドがコーディネーターを務め、同教授・船生豊（研究・地域連携本部長）4人のパネリス  
トが意見を交換。これからの時代にふさわしい、普遍的な価値を求め意識を共有できた意義深い一日でした。



- 「観客参加型の創造的プロセス」オーストラリア/シドニー工科大学教授アーネスト・エドモンド氏
- 「サービス指向分析設計のための新たな基盤」スウェーデン/カールスタッド大学教授レミテイウス・グスタス氏

「地域価値から世界価値へ（21世紀型産業の創出を目指して）」と題した本学主催の国際シンポジウムが行われました（昨年10月3日/ホテルメトロポリタン盛岡・NEW WING）。  
社会の複雑化・多様化に 대응する形で独創性や創造性を発揮して次世代型のテーマを構築、進化させていく。こうした観点に立ち、学際的な実学が果たすべき役割を再認識することができました。また、ポータルレス時代に通用する新産業の創出を促す「学」のポテンシャルを探る良き機会とも意味づけられます。  
ITや社会システムに関する国際的な研究者が、知見あられる講演を行いました。

さまざまな発見や感動や協働への期待を込めた「I」がテーマでした。8回目の若手県立大学大学祭「IPU FESTA 2005」10月29・30日の熱気と賑わいを振り返りつつ、次回への決意が寄せられています。  
「いよいよ迎えた開催当日。あいにくの曇天で来場者が少ないのでは、と心配しましたが、それは杞憂でした。オープニングの1時間も前から大勢の方が来て、入ってくる人のほうが帰る人より多い、という状況が続きまして。若手大学との共催企画など、新しい取り組みを行いまして。また環境へ配慮してリサイクルとリユースを推進。模擬店で使う食器の再資源化ならびに再利用を図ってゴミ削減に力を入れました。より良い方向めざし、こうした取り組みを継続していきます。また現場スタッフの手が回らず、来場者

**来場御礼、そして次回に向けて**  
心「I」を灯した  
IPU FESTA 2005

## 職場訪問

### 心構えも伝えたい。

●教育・学生支援室 就職支援グループ  
働くことって何だろう。自分は、どんな仕事に向いているのだろう。そんな思いに添えて1・2年生の自己発見を促しています。もちろん、卒業後のイメージが具体化しつつある3年生へのサポートもタイムリーかつ効果的に。全学的なスタンスに立ち、学生一人一人の進路開拓を多面的に応援する面々です。  
就職支援センターは、メディアセンターA棟の3階に開設されています。すぐ近くが学生ホール棟なので、利用しやすいと評判です。  
「企業情報や求人票のチェックに限らず、いろいろな相談を寄せたり希望を出したりして、どしどし活用してほしいと思います。アレコレお話ししながら、就職への心構えのような事柄も伝えていきたいですね」（荒澤 順子主査）  
春にかけて、合同企業説明会が続きます。さらに学部との情報交換、求人企業の開拓もスケジュールに加わって多忙な日々です。



10月29・30日、宮古短期大学部で「蒼翔祭」が開催されました。16回目のテーマは「一瞬、今しか無え」。今という時を精一杯に生き、学び、楽しもう。そんなメッセージが込められています。ながい人生の中で短大での2年間が持つ大切な意味を確かめ合う。この心意気が、学生と教職員の一休感を育みました。さ

**蒼翔祭から 巣立ちの季節へ**  
大忙し。  
宮古キャンパスの秋・冬・春



らに地域の皆さんに学内を開放して、さまざまな企画や展示を行いました。こうした一方、1年生への就職指導が始まることも、4年制大学への編入学に向けてキメ細かな準備が行われています。  
企業訪問、模擬面接、模擬試験など学生の進路サポートを積極的に実施しています。さまざまな地道な努力が実を結んで就職希望者の約90%が内定、また18名が4年制大学などへの編入を果たしました（平成17年3月卒業生）。晴れの卒業式を経て、学生は社会や新たな学びの場へ羽ばたきます。

# 大連から、ようこそ。

留学生と一問一答 ※氏名に続いて、所属講座と研究領域  
※回答の順は ① 岩手県立大学の印象  
② こちらで学ぼうとした動機  
③ 留学の成果を、どう活かすか



## 張 楹丰 [チョウ・オンホウさん]

伊藤研究室/ヒューマンインタフェース

- ① 学内の情報システムが先進的ですね。こちらでの生活にも慣れ、楽しい毎日です。
- ② 人間とコンピュータの、より良い関係を高いレベルで学びたくて。日本語のレベルを上達させるのも大きな目的です。
- ③ 人間のためのコンピュータ、という考え方を母国に広めたい。とくに、ユニバーサルデザインの観点からアプローチするのが希望です。



## 李 偉 [リ・イさん]

曾我研究室 /リアルタイムシステム

- ① キレイと言うか、清潔感の漂う場所だと思います。気さくで親切な人が多いとも感じます。
- ② 機械を制御するソフトウェアを勉強するのが目的です。また、日本の大学生と交流するチャンスを積極的に作ろうと思いました。
- ③ 日本と同様のプログラムやシステムを、中国における産業の現場でも使えるようにカスタマイズしたい。

## 黄 緒平 [コウ・ショヘイさん]

阿部I研究室 /コンピュータアーキテクチャ

- ① 電子工学の先進国、日本。学部棟には、その雰囲気が良く表れていると思います。
- ② ソフトウェアやシステムを構築するための理論・知識・スキルを総合的に修得するためです。また、日本語のレベルも高めたいと思います。
- ③ さまざまな成果を活かして中国が日本で、ソフト開発の仕事に就くのが希望です。



## 周 寧寧 [シュウ・ネイネイさん]

土井研究室/コンピュータグラフィックス

- ① いろいろな学年の学生が一つの講座で共に学ぶ。そんな仕組みに特色を感じています。パソコンのスキルに優れた人も多くですね。
- ② 専門性を深めること。たくさんの方と出会うこと。日本の美術や現代のカルチャーへの理解を深めること（コミックも好きです）。
- ③ 医療分野に携わり、CGなどの画像処理技術を活用する方法を広めたい。ただ、アニメにも興味があるので詳しくは、ジックリ考えます。

## 王 立璋 [オウ・リツイさん]

高田II研究室/分散システム



- ① 初めて日本で暮らすのでカルチャーショックは大きかったけど、もう大丈夫。講座の先輩が身近で、いろいろ質問できるのが嬉しいです。
- ② 企業活動とコンピュータという観点で、日本で特徴的な経営システムを学ぶつもりです。
- ③ 専門を活かせる道に進むため、とにかく勉強を積むことが大切だと自覚しています。



曾我正和・ソフトウェア情報学部長と一緒に

大連交通大学との学生交流、その第一弾として5名の留学生を迎えることができました。それぞれ意欲が高く、プログラミング言語などの基礎が備わっているのが本学のカリキュラムへの対応力に優れています。講座の雰囲気にも溶け込み、一般学生と刺激し合ったり日常的な交流を深めたりしています。これを契機に学術面も含め、たがいに働きかけながら日中で価値ある取り組みを進めたいと思います。

出会いから  
何かが  
始まる。  
伊藤 憲三教授  
ソフトウェア情報学部  
学生部長



# 春に向かって、アイーナキャンパス

## 盛岡駅西口に、新たな活動拠点が誕生します

この春盛岡駅西口に「いわて県民情報交流センター」（愛称・アイーナ）がオープンします。県立図書館なども入居するこの2施設併設の7階に、サテライトキャンパスとして開設するのが「石手県立大学アイーナキャンパス」です。商業施設などのある中心街にも近く、盛岡駅やマリオスに近接する利便性の高い場所に位置するサテライトキャンパス。他に例を見ない新たな拠点で、県立大学は4月以降、じかに県民の皆さんと交流しながら、さまざまな活動を展開することを計画しています。

### さらなる地域貢献、そして教育・研究機能の向上を

本学の中期目標では、建学の理念を継承しながら「実学実践」を中核とした人間教育・実証研究・地域貢献を一体的に推進することを謳っています。アイーナキャンパスでは都市機能に近接するメリットを活かしながら、本学の新たな活動領域を開拓し、地域貢献の強化と教育・研究機能の向上を図って地域の大学として成長していくことを目指します。

### ワンストップの利便性に富む複合施設の7階に

授業や研修会セミナーなどを行う中規模の教室(5室)、パソコンを利用できる教

室(1室)、相談事業やミーティングに適するセミナー室相談室(4室)、さらに学生のための自習室や資料などを整備しています。アイーナには本学キャンパスのほか、約500人収容のホールや会議室、研修室が整備されます。さらに県立図書館、県民活動支援総合センター(高齢者活動交流センター)子育てサポートセンター・NPO活動交流センターなども入居する予定で、これらの施設の機能との相互補完性を追求しつつ利便性に富む施設を目指しています。

### 本学の独自性・知的資産を活かす5つの機能

立地上のメリットを活かし、サテライトキャンパスとして次のような機能を実現

現、事業を展開していきます。

### ■社会人教育機能

大学院の授業やリカレント講座を通じ、社会人のキャリアアップをサポート。社会の変化に対応できる人材づくりを進めます。●大学院総合政策研究科では、「公共政策特別コース」を新設して授業を行います。●看護学研究科、社会福祉学研究科でも、大学院の授業の一部を実施する計画です。●盛岡短期大学部では、管理栄養士の資格取得に向けた講座を行います。

### ■生涯学習支援機能

バラエティーに富む公開講座や講演会などをを行い、さまざまな生涯学習ニーズに対応します。●滝沢キャンパスのほか、アイーナキャンパスでも「石手県立大学公開講座」を実施します。

●学部・短大部においても、それぞれの特性を活かす公開講座の実施を計画しています。●ソフトウェア情報学部では、高校生や研究者を対象に、授業のライブ中継や

### ■ソーシャルサービス機能

保健医療や社会福祉に関する相談窓口を開設。県民の相談への対応や、現場へのサポートなどを行い、地域社会に貢献します。

●看護学部では看護(療養)学的アプローチによる保健医療相談事業を行います。●社会福祉学部では臨床心理の相談サービスを行う「臨床心理センター」、県民へのクリニカルサービスや福祉職員へのサポート活動などを行う「ソーシャルサービスセンター」を開設します。

### ■地域協働・産学連携活動支援機能

研究活動、教育活動の二環として行われる各種プロジェクト。それらの活動の場として活用し、地域との協働や企業との連携などを推進します。

### ■情報発信機能

教育と研究の両面にわたる成果や学術情報をはじめ、入試情報や就職情報など本学の活動に関する各種の情報を発信します。

## 凛として 心身を鍛えよう

形(かた)や動作の流れ、そして武道の美しさを体で覚えられるような稽古を積んでいます。初心者が多いので楽しく、安全に。週3回、2時間ずつの活動で部員の和が育まれます。

礼に始まり、体をほぐして突き、蹴りの基本動作へ。その後動きを絡めたり、組み手を試したり。最後は、気合一本のポーズで締め。「やっていたら自然に柔軟性が増し、しなやかな筋肉が付いてボディバランスが良くなります。健康のためにも、空手道はオススメです」

新部長の永澤玲朗さん(ソフトウェア情報学部2年)ほか、男女あわせて10名ほどが凛とした空気の中で心身の鍛錬に励んでいます。



# 法人化移行後

## 2年目にあたって

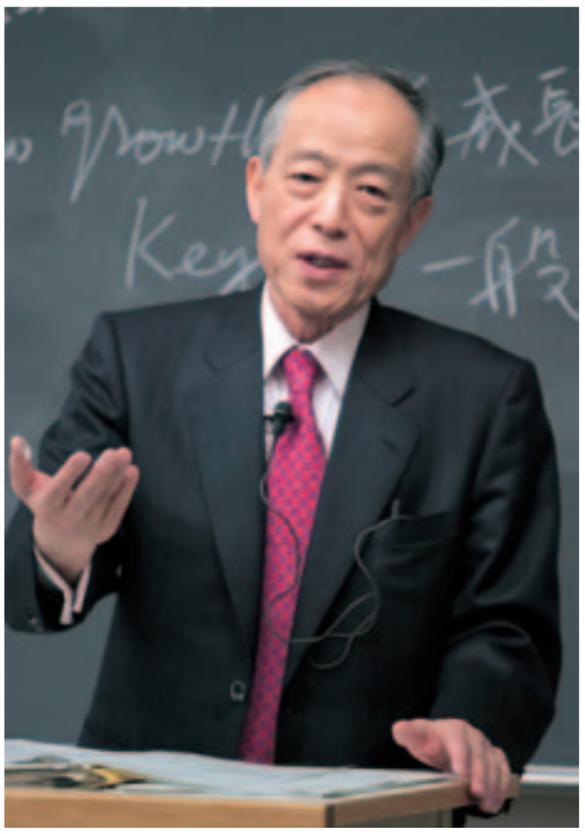
学長 谷口 誠

れた先人のDNAが流れています。若い学生達が郷土の伝統や先人を通して「賢者の道」を学び、国際社会に通用する人材として育つことを強く願います。一方、研究活動については法人化を契機とする全学的な仕組みにより、学際的なテーマのプロジェクト体制を立ち上げたところです。

地域における「知の拠点」としての研究内容に関しては、これまで以上に地域社会や産業界のニーズを強く意識しなければなりません。したがって、それぞれの専門領域を超えた研究者間の連携や、国際的な協働に基づく技術・アイデアをベースとした研究を推進することが重要と考えられます。

本年は、最近とみに注目されている電磁波であるテラヘルツの応用研究などの推進を重点に置きます。そして他大学や企業との連携のもとで研究を展開し、近い将来は、その成果を活かして地域医療や産業のイノベーションに貢献したいと考えています。

この4月にはアイーナキャンパスを盛岡駅西口に開設し、社会人である専門職に対する大学院教育プログラムや生涯学習プログラムを展開するなど、あらたな地域貢献の取り組みを充実させることになっています。さらに大学運営全般においては大学の透明性を一層高めながら、地域社会における本学の存在感を高めていこうと考えています。教職員が体となり、さまざまな目標に向かって前進する決意です。



本学が公立大学法人として再出発してから、本年度2年目を迎えます。昨年においては、法人化に伴い「中期目標」と「中期計画」を定めるなどの基盤づくりを行いました。それを受け、本年は建学の精神を引き継ぎつつ法人としての運営基盤の上に立ち、実学・実践重視の教育を行う大学として使命を達成させるための取り組みを着実に進めていきたいと思います。

まず教育についてですが、人や資本や技術が国境を超えてダイナミックに動くグローバル化の進展により、世界が一つの競争社会に変わりつつあります。このような時代においては、自分の言葉で外へ向かって発信できる表現力を身につけた個性豊かな人材が求められます。

これまで私が授業の経験を通じて感じたところでは、本学の学生には、ともしばしば控えめで自分の意見を積極的に発言しない傾向が見られます。本学での学生生活を通じて、学問分野の基本理論を身につけること。そして自分の真の適性・能力は何かを発見すること。さらに職業等を通じて将来、社会に対して何ができる

かという考えを確立すること。このような自己実現へのプロセスを踏まえ、地域に貢献するとともに国際的にも通用する人材へと脱皮・成長することを期待しています。本年においては、こうしたことを目標・ねらいとして日常の教育活動の取り組みを「層進め」ます。また国際的な教養を身につ

けた人材の育成と強化を図るため、盛岡短期大学の4年制大学への移行に向けた検討なども進めたいと考えております。●石手・東北の人々には、日米の掛け橋として国際的に活躍した新渡戸稲造や、エール大学教授として日米の戦争回避をルーズベルトにはたらきかけた朝河貫二など優

# 風を起こせ

「環境、ひと、情報」の未来へ ②

全学的に取り組む企画——その先行モデル例

## 地域専門職高度化プロジェクト

●**研究概要**  
看護職・福祉職・行政職・ソフトウェア技術者など県内で専門職として活躍する人材が対象です。さまざまな学習機会を提供するとともに継続的な教育メニューを実施して、これからの時代にふさわしい知識や技術の高度化を図ります。いつでも「どこでも」というニーズに対応、ITを活用する遠隔教育システムを構築します。

社会の変容、  
多様化に応えるテーマを掲げて  
さらなる地域貢献の形を指向する。  
あくなき学際性の追究で、  
さまざまなジャンルに渡る  
知の協働と融合が図られる。

●**推進体制**  
「環境、ひと、情報」というキーワードに即して学部横断型で人材が結集します。すなわち4学部の特徴を生かし、学際性が色濃く表れる研究を展開していきます。  
プロジェクトリーダーを務めるのは、看護学部教授・武田利明です。このほか看護学部・社会福祉学部・ソフトウェア情報学部・総合政策学部から延べ18名が参加。教材としてコンテンツに用いる素材の収集、さらに遠隔教育プログラムやテレビ会議システムの開発、画像コンテンツツバーの設計など、それぞれの役割が明確です。

●**実施計画**  
まず平成17年度は、看護職のための遠隔教育プログラムを試作・開発する予定です。  
具体的には、看護学部・安藤広子助教を中心に遠隔看護学に関する内容を組み立てます。現場の声に即してニーズを把握するとともに、コンテンツの内容を具体化。また、システム構築と連動して通信インフラの整備やバージョンアップを進めます。試作・試行の段階ですが、看護現場とのネットワーク中継によって教育効果を検証することも価値あるステップだと認識しています。

●**これから**  
提供されるコンテンツ（講義の動画映像などは遠隔教育システムのサーバに蓄積し、さまざまな機会に利用できるようソフトウェア情報学部鈴木克明教授と市川尚助手が技術的に対応します。また福祉・行政・ソフトウェアに関わる専門職者のニーズ調査を展開、平成18年度からはコンテンツ開発が本格化します。さらに、いわて情報ハイウェイの活用も視野に入れ、高度なインフラの利便性を利用者が実感できるよう努めます。

### ニーズ調査から コンテンツ開発へ進む案件

- 看護学部**  
看護ケアの場面の分析から、現場スタッフのニーズに直結する遠隔学習方法の確立
- 社会福祉学部**  
ヒューマンサービス職へのバーンアウト予防教育法の開発
- ソフトウェア情報学部**  
組み込みソフトウェアの高度技術者養成のための遠隔学習方法の確立
- 総合政策学部**  
農業・農村生活関係の普及指導員の技術向上のためのネットワーク利用学習方法の開発



遠隔看護学の遠隔教育プログラム。その配信システムの使い勝手についてチェックと意見交換が行われた。(12月13日・看護学部棟)

## IPUへ言いたい

### より魅力ある 大学であるために

**平** 成10年に岩手県立大学が開学し、今年で8年目を迎えました。地域の進学需要への対応、明日を担う人材の育成という観点から十分に役割を果たし、全国から注目される存在になっています。看護・社会福祉・総合政策・ソフトウェア情報と4学部を擁し、建学の理念のもとで実績を着実に残していると思われれます。また、すぐれたAO「アドミッション・オフィス」入試や独自の学生選抜を実施。さらに高校教員から入試制度や大学のあり方について意見を聴くなど、積極的な姿勢が高く評価できます。

さて最近の高校生の進路志望状況を見ると、地元大学への進学希望が強く、それを保護者も望んでいる傾向があります。そこで、お願いしたいことを3点ほど挙げます。

まず一つ目は「高大連携の強化」です。生徒の学習意欲や学力の向上を図るため、それぞれの学校と学校の連続性を重視する機運が高まってきました。たとえば中学校と高校との、いわゆ

る中高連携など。それと同様に、高校と大学との間で高大連携の強化が望まれています。オーブンキャンパスや大学・学部の説明会、あるいは出前講義、そしてウインターセッションなど、さまざまな企画や催しが行われていますが、こうした内容のさらなる充実に努めてほしいと思います。生徒の興味・関心・意欲を育てる一助として、大学が身近な存在であり続けること。この点に大きな期待を寄せています。

生徒たちが、あるいは岩手県民が大学と接する機会が増えていくと、これまで以上に大学が活性化すると信じています。  
3点目は上述の内容と関連しますが入試の一般推薦枠において、これからも地元校の枠を残してほしいということです。生徒たちはもちろん、保護者も、われわれ教員も望んでいます。きめ細かな社会福祉や看護医療の推進、さらに政策づくりや情報環境の高度化などは地域に根ざし

なかるようになり、より自立した個性的な地域のイメージが重視されるようになりました。すなわち、世界的視野に立った地域社会の基盤づくり、という考え方が不可欠です。そうした指向を實踐する岩手県立大学の評価は一つの地域にとどまらず全国、さらに世界で高まっていると思われれます。これからも、ますます魅力あふれる大学であることを期待しています。



岩手県立不來方高校 校長  
**川村 祥平**

1948年 岩手県生まれ。東京学芸大学卒業  
岩手県立岩泉高校、盛岡一高、遠野高校を経て  
岩手県教育委員会学校教育課勤務。生徒指導を担当  
岩泉高校の校長として赴任。  
2002年 不來方高校に異動し現在に至る。担当教科は数学。

2点目は、岩手県立大学が保有する研究内容（知的資産）および研究施設を、できる限り開放してほしいということです。それは現在でも実施されていますが、知的ニーズや人材育成への対応という観点に立ち、地域のあり方と結びつく形で、より踏み込んだ取り組みが価値を生み出すと認識するからです。学ぼうと思えば、いつでも学べる環境が整い、それを利用できること。

て充実を図るべき事柄です。それぞれの地域が抱える問題は、地域力で解決していく。そんな時代の担い手が、岩手を中心とした次代の人材であろうと願うからです。

「地方の時代」や「国際化の時代」と言われて久しくなります。インターネットなど情報環境の発達で、中央と地方との文化的な格差も小さくなりました。また、ダイレクトに地方と世界がつ

さらなる高大連携を推し進め、  
生徒の思いに応える大学づくりで  
地域との絆は深まっていく。



# 電法(あんぽう)の 科学も話せる。

「しばらく、ジッと座っていてね」。友だちが来て、電法の実験が始まった。腕に貼り付けたセンサーを通し、パソコンにデータが送られる。「病因病態学」などを講じる看護学部学科長・武田利明教授が指導教員を務めた。



## 「臨床めざす私の心」

飯岡 沙樹 「看護学部／4年」

やりたいことをハッキリ自覚できたから、あまり悩んだ記憶がない。4年次の11月なかば、進路は決まった。看護の道に生きようとする意志が、臨床の現場へと続いている。

「いろいろな実習を振り返ったり、将来をイメージしたり。これといった秘訣はありませんが、自分探しの一環として就職先を決めました。キャリアを積んで一人前の看護師になること。そして看護総合実習で母性看護に取り組んだ成果を活かして、小児分野でも人の役に立つこと。私の希望は、この2点でした」

このようにして社会へ出るためのハードルをクリアした飯岡さん。就職先は、宮城県仙台市にある療養型の医療機関だ。筋ジストロフィーなどの重症患者が慢性期を過ごす小児病棟もあり、看護学校を併設

している。

看護学部生の就職活動は、4年次の夏にピークを迎える。あらかじめ進路調査や個別指導は行われるが、動きが本格化するのは看護総合実習を終えてから。7月に入るとガイダンスやセミナー、そして病院説明会などのスケジュールが組まれ、具体的な情報収集や願書提出、職場訪問へと段階は進んでいく。

「自分の気持ちを伝えるのが苦手なタイプではありません。だから面接では、うまく話せたと思います。アピールしたかったのは『小児科で働いてみたい』という私なりの意思です。児童養護施設や障害児施設で実習する機会があり、ほんの微力だったと思いますが、子どもたちが生きていく支えになれた臨床体験の様子も交えてみました」

### グローバル時代の看護も想う

福島市に生まれ育った飯岡さん。まだまだ漠然としていたが、医療系の仕事に就くだろう、と意識し始めたのは高校生の頃だ。生物が得意科目の一つで、獣医というスペシャリストへの憧れも強かったが、叔母さんが看護師として働いていたのに強く触発された。

もともと自然への好奇心が旺盛なタイプで、花も木も動物も好きである。そして小学校の卒業文集に綴った将来の希望は、オーストラリアでボランティア活動に取

り組むこと。山火事で苦しむコアラたちのニュース映像がショックで悲しくて、なんとかして助けてあげなくちゃ、と子供心に感じたのが真相だ。

もちろん今では、無償で多くの人の役に立てる社会活動にも関心が向いている。たとえば医療ボランティアとして発展途上国に出向き、病気やケガで苦しむ人たちはをサポートする意義は大きい、と飯岡さんは常々考える。グローバルな時代は進むだろうし、国境を超えた看護のあり方にも地球市民としての希望を託したい。そんな想いで視野を広げながら、学業の興行きを追っている。

### 自分のテーマを育ててみた

「これまでの学生生活を振り返ると、さまざまな分野に関して病院施設で実習を積んできた記憶が圧倒的な重みを持っています」

このように偽らざる気持ちを表す飯岡さんは現場に立つと、授業で習った知識や理論とのギャップに戸惑いを隠せなかった。技術論に偏ったら看護は語れない、と知った。さらに患者さんの話を聞いたり気持ちに配慮したりして一つの「場」を共有することが大切だ、とも教わった。さまざまな看護技術、そしてメンタルなケア。これらのバランスが取れてこそ、良い看護を実践できると納得できた。

看護師の国家試験が2月に迫ってきた。また内定の連絡を受けてから年末まで、卒業研究に追われていた。いわば、4年間の総まとめ的な個人プロジェクト。それぞれの看護観やテーマ意識に基づき、研究の対象や方法、そして全体の組み立てを考えられる。

そこで、飯岡さんは電法(あんぽう)という療法に着目した。たとえば湯タンポを

用いるなら、温電法。氷枕を用いるなら冷電法だ。ようするに皮膚を局所的に温める、あるいは冷やす。こうして血流変化(循環動態)を促して薬効成分などの吸収を助ける、痛みを和らげる、といった処置を施すことである。

「電法は広く用いられている看護技術ですが、その安全性、有効性を実証的に確かめようと思いました。科学的な裏づけと知見が備われれば、患者さんにとってもプラスですから」

被験者として、友だち5人が協力してくれた。温水もしくは冷水を入れたゴム袋を局所に当てる。そこにセンサーが貼り付けられており、一定の圧力が加えられた際の皮膚温・血流状態がパソコンに取り込まれる。こうしてデータが積み上げられ、考察と分析の対象となった。さらに、いろいろな温度を変えた電法効果についても比較と検証を重ねた。

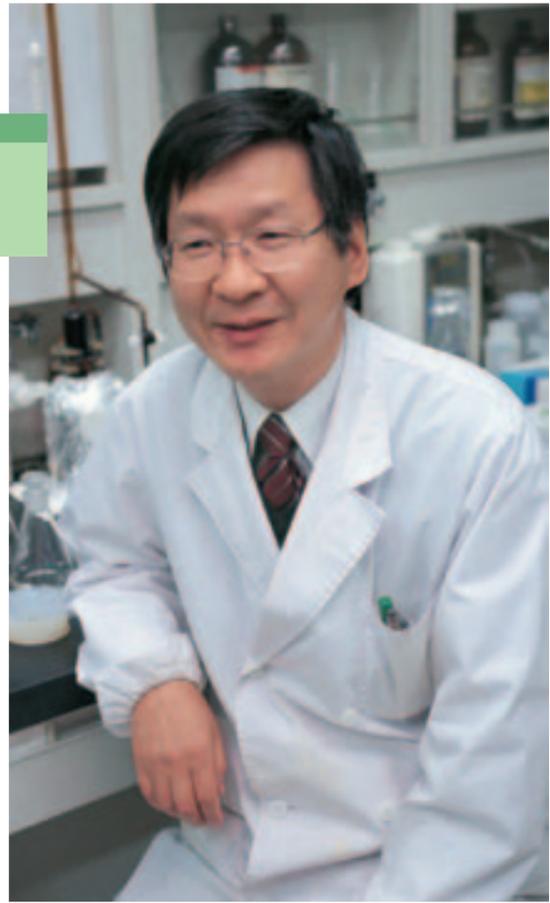
「点滴漏れを想定して実験計画を立て、友達の厚意で充実した時間を過ごせました。どうなっているのかな?と感じた臨床の身近な疑問を解くプロセスは科学そのものです」

### 結びのQ&A

- 学心喜び  
…「少しずつ夢に近づけること」
- 学問の理想像…「実践との融合」
- 私にとっての看護学…「自己実現の手段」
- 自己分析  
…「課題あり。悩みなし」
- 職業生活の予想  
…「ずっと看護師かな」
- 「ずっと看護師かな」  
…「私の宝もの」
- 話せる友だち



教える私・究める私



盛岡短期大学部 生活科学科長

千葉 俊之

知識の引き出しを創る  
学び舎。

生活科学専攻、食物栄養学専攻という2課程を擁する盛岡短期大学部生活科学科。その学科長を務めるのが、千葉先生です。「私たちの暮らしと極めて密接に結び付いている衣・食・住。まず、これらの分野に科学の眼を向けましょう。そして、環境にも配慮して賢明に生きていくための情報・知識・理論の引き出しを増やしてほしいと願っています。資格や専門性という形で仕事に活かせる要素、さらに家庭生活にも役立つ実践的なノウハウや考えなど、成果は広がります」

職業教育を推進する立場で、千葉先生は栄養士の育成にも力を注いできました。さまざまな学会や講習会で、しばしば卒業生と同席するそうです。栄養士として医療機関や給食施設で活躍する様子も知るほどに、教える仕事の手ごたえと喜びが増すようです。

専門分野は食品化学で、脂質の酸化を抑える方法の研究が主要テーマの一つ。また、難しいことを易しく伝える教授法に磨きをかけます。ファストフードに含まれる脂質の成分分析、という卒業研究に取り組む学生への指導にもキャリアの重みが感じられます。

「ちは」としゆき  
東北大学大学院農学研究科「博士」食糧化学専攻を修了。岩手県立盛岡短期大学講師を経て1999年4月、盛岡短期大学部教授。2004年4月より生活科学科長。担当科目は「生活の化学」「食品有機化学」「食品加工学」など。研究者として脂質の酸化、過酸化脂質に関心を寄せている。日本油化学会、日本農芸化学会、日本調理科学会に所属。

宮古短期大学部・経営情報学科 助教授

松石 泰彦

まず対話。  
主体性を促したい。

おなじ高さの目線で話す。偏狭なポリシーは持たない。独善に陥りやすいので、我流の価値観は振りかざさない。学生と向き合う際の、いくつかの鉄則を挙げてくれました。「それぞれ異なる意欲や思いに、どう応えていくか。そこが考えどころです。何かに取り組もうとする純粋な気持ちを含んで、さらなる動機づけを促したり行動へ導いたりするのが教員としての役割だと自覚しています」

勉強のこと、あるいは就職や編入学のこと。十人十色の相談を、松石先生は一生懸命に受け止めます。そして最後は「あなたの意志と主体性を発揮しよう」と、勇気づけます。

わが国の経済史・経営史が専門で担当科目は「経営史」「産業史」ほか。研究の一環として、産業界の発展の歴史過程・産業構造・日本の経営の特質などを動向的なケーススタディとして捉えます。自動車産業の進出が著しい金ヶ崎・北上エリアも注視しており「現場への視点で得た情報や知見を分かりやすく紹介したい」と、授業の充実との相乗効果もめざします。

「まつし やすひ」  
「橋大学経済学部卒。橋大学大学院社会学研究科博士課程・地域社会専攻を修了。1998年、宮古短期大学部に講師として着任。2004年より助教授。専攻分野は日本経済史・日本経営史。とくに企業内・企業間関係の特徴を軸に据えて企業城下町の形成過程を考察。企業と社会、企業と地域などの観点で実相を捉えて構造分析を展開する。



鉄道業に生きる、と決めた。



齋藤 努さん  
[ソフトウェア情報学部/平成16年3月卒]  
IGRいわて銀河鉄道株式会社 運輸管理所

●サービス業を志望した  
セキユリティー論を専門とする講座での卒業研究は「携帯電話の個人認証」について。ソフトウェア情報学を修めた成果は、かけがえない資産として生きていきます。大学での勉強と仕事の両立は、かならずしも一致しなくて良い。就職に際して私は、こう考えました。サービス業に興味があり、選んだのが鉄道の会社です。

●車掌としての乗車勤務  
総合職として入社、いわて沼宮内駅での勤務を経て現在は車掌として働いています。6日間のシフトが生まれ、盛岡と八戸を結ぶ区間に乗車しています。安全運

行を徹底するとともに、お客様へのサービス向上に努めていくことが私たちの使命です。高い公共性に裏打ちされた仕事は責任が重いぶん、やりがいも大きいですね。

●職能は、いろいろ磨ける  
私は、乗客の皆さんと接する車掌の仕事が好きです。こうした一方で将来に向け、いくつかの選択肢も考えられます。たとえば運転士に。このほか、電力・信号・保線に関する設備管理。さらに総務や営業といった部門など。どのようなポジションに就いても鉄道業への愛着と情熱を支えに、仕事の幅を広げていく決意です。

銀行員が天職かもしれない。



帷子 勝さん  
[総合政策学部/平成16年3月卒]  
岩手銀行 遠野支店

●お客様のため、という自覚  
経営学を志してIPUに入学。株式投資におけるリスク軽減の方法を研究し、行政・経営コースでの集大成を仕上げました。また、居酒屋で働いた経験を就職活動に活かせると思います。つまり、お客様の満足度を高める仕事への自覚です。そうした観点に立ち、地域密着の金融サービスを展開する当行を志望しました。

●ジヨブローテーション2年目  
ここ遠野が最初の赴任地です。新入行員の頃、ジヨブローテーションの第一階は渉外係として、市内を集金で回りました。

その後、窓口係や後方事務を務めながら事務規程などを習得。そして2年目の11月からは融資を担当しており、マイカーローンやフリーローンなど個人向け商品を中心に業務の幅を広げています。

●人は信頼感で結ばれる  
お客様が銀行を選ばずと言われる。この私も専門的な勉強を重ねたり、サービスの方法を工夫したりして期待に応えようと一生懸命です。また、さまざまな資金需要に応じて地域を活性化させる当行の役割にも大きな意義を感じています。信頼感を育み、人や企業との絆を深める銀行員という職業が天職に思えます。